

# 風水害に対する心構え

風水害とは、強風や大雨により発生する災害で、台風や集中豪雨などに伴い発生します。洪水害、土砂災害、風害は総称して風水害と言われます。

近年は、局地的な集中豪雨などが発生する傾向があり、特に風水害には注意が必要です。日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

## 台風

日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害にあっています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。



### ■風と被害 (出典：気象庁ホームページ「風の強さと吹き方」)

平均風速 (毎秒)	影 響
10~15m	風に向かって歩きにくい。看板やトタン板が飛ぶ。
15~20m	歩くことができない。高速道路での運転は困難。
20~25m	しっかりと身体を確保しないと転倒する。車の運転は危険。
25~30m	立ってられない。樹木が倒れ、ブロック塀が壊れる。
30m~	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊がはじまる。

### ■台風の強さと階級分け

階 級	最 大 風 速
強 い	33m/s以上~44m/s未満
非常に強い	44m/s以上~54m/s未満
猛 烈 な	54m/s以上~

### ■台風の大きさと階級分け

階 級	風速15m/s以上の半径
大型 (大きい)	500km以上800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

台風の大きさは「風速15m/s (メートル/毎秒) 以上の半径」、強さは「最大風速」で表されています。

## 集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難です。

中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予測されるため、気象情報に注意して被害が出ないように備えましょう。



### ■1時間の雨量と降り方 (出典：気象庁ホームページ「雨の強さと降り方」)

1時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20ミリ	やや強い雨	ザーザーと降る。	長く続く時は注意が必要。
20~30ミリ	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30~50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50~80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	都市部では地下室に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80ミリ以上	猛烈な雨	息苦しくなるような、圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生するおそれが高い。

## ●風水害対策は気象情報の収集から

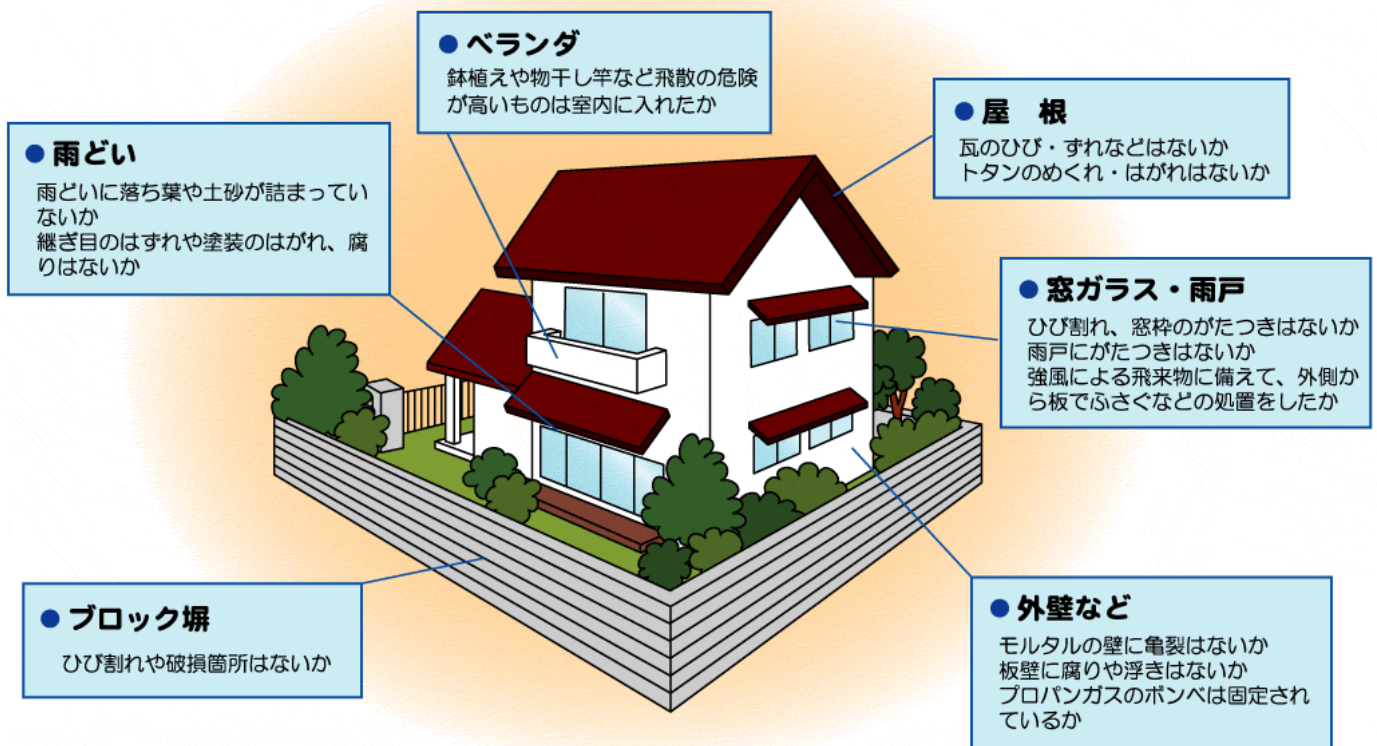
台風や豪雨の被害は、正確な気象情報を集めることで最小限にとどめることができます。気象庁が発表する気象に関する警報や注意報などに注意して、適切な対応ができるようにしましょう。

情報を集める手段としては、テレビ、ラジオ、電話（177番）、消防署・警察署・市役所などがありますが、がけの亀裂や水位の変化といった身近な環境の変化にも注意するようにしましょう。



## 風水害が起こりそうなときは

気象情報などにより、台風や低気圧、前線などが接近し、強風や大雨の危険が迫ってきたときは、家の中や周囲をしっかりとチェックして、風水害に備えましょう。



## 風水害が発生したら

- 家族や隣近所など、みんなでお互いに声をかけ合い、安全を確認しましょう。
- 避難誘導員がいる場合は、その指示にしたがい、勝手な行動はつしみましょう。
- 家を出る前には、次のことを確認しましょう。

- ① 火の始末はしたか
- ② ガスの元栓はしめたか
- ③ 非常持ち出し品を携帯したか（非常持ち出し品チェックリスト参照）
- ④ 外出中の家族がいる場合、行き先を書いたメモを残したか



- 洪水時は、できるだけ高い箇所にある道路を選び避難しましょう。
- 洪水時は、水路や溝、地盤の低いところに十分に注意しましょう。
- 危険が迫ったときは、近くにある丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。
- 自宅で逃げ遅れたときには、電話・懐中電灯・発煙筒などで居場所を知らせ、救助を待ちましょう。
- 河川敷や土砂災害の被害を受けやすい場所は危険ですので近寄らないようにしましょう。